

# 国交省や県・市担当者が汚泥処理を見学

## 発注者主導型工事間利用の推進へ

### 泥土リサイクル協会



泥土再資源化技術「イーキューブシステム」

（一社）泥土リサイクル協会（愛知県稲沢市、木村孟理事長）は10月2日、協会の永田重機土木（鹿児島市）の造粒固化施設で、建設汚泥処理施設見学会を

開催した。鹿児島3号東西道建設工事の地盤改良工事から排出されている建設汚泥を再資源化するようすを、発注機関（国土交通省や鹿児島県、鹿児島市）の担当者ら約50人が見学。泥土再資源化技術「イーキューブシステム」の処理行程や改質土の品質を確認した。同協会によると、協会設立当初（約15年前）は、汚泥のリサイクル率は14%だったが、最新の調査結果では85%と大幅に向上。その一方で、国土交通省の建設副産物実態調査で、2012年度の建設汚

泥の工事間利用は1%となっており、02年度の4%から大きく減少。中間処理業者が適正処理する量が増えているのに対し、将来を見据えた利用先を確保することが難しい状況にあることから、同協会は勉強会や講演等の啓発活動を実施することで、泥土リサイクルの受け皿となる発注者主導型の工事間利用を推し進めている。見学会で処理したのは、セメントを含む自硬性汚泥（含水比100〜110%）。「イーキューブシステム」(N E T I S登録済み)は、



発注者から大きな関心が寄せられた

調泥した対象物をホッパーに投入後、まず高分子凝集剤を供給し特殊連続ミキサーで混練する。続いて、固化材を混練し、特殊連続ミキサーで混合攪拌する流れとなっており、30秒ほどで高含水汚泥が

間経過すればタンクに積載できる。2日後には、第2種処理土としての要求品質を確保可能とした。永田重機土木に設置された装置はユニットタイプで、▽混練ミキサー▽泥土供給装置▽油圧ユニット等を防音ユニットハウスに集約。10トトラックで運搬でき、現地で組み立てが可能。処理時に粉じんの発生や騒音振動が少ないことから、市街地等でも適用できる。パッチ式でなく、連続処理のため処理能力（1時間当たり40立方メートル）が高いことも特徴とした。同70立方メートルは100立方メートルのセパレートタイプもあり、建設汚泥から浚渫土砂、災害堆積土等まで幅広く対応する。処理後は再泥化せず、ハンドリングに優れた盛土材・埋め戻し材などの土質材料として供給。「品質を『安定的』かつ『継続的』に確保できる処理技術」として見学者に解説した。